

# HB通信

編集・発行 /  
一般社団法人  
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階  
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281  
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/

## つとむくんの つとむくんのつぶやき「このごろ思うこと」



つぶやき

10月31日に農林水産省と被差別部落の農業と漁業について話し合う機会がありました。被差別部落の農業や漁業等における現状と課題を提起し、どのように解決していくかを話し合う場です。会議の最初のテーマとして「農林水産省における人権研修」についての取り組みを尋ね、農林水産省より説明がありました。それを受けてもう少し詳細な説明と疑問に思うことを尋ね会議が進んでいきました。説明で研修状況は「法務省の資料の閲覧、ビデオの鑑賞などを行っている。参加は、任意である。参加状況は、把握していないがアンケートは906人の提出があった」とされました。前回の協議(5月23日)において、この会議の場に参加している職員の研修の受講状況を尋ねました。その回答が、「人権研修を受講した人は、一人もいない」とのことでした。そこで、その後今日までに研修を受けた人がいるのかを尋ねると「研修は毎年12月の人権週間に行うので、受けていない」でした。この時点で、農林水産省の「人権」に対する位置づけが分かったような気がしました。私たちは、部落差別をなくす取り組みをしている当事者であり、団体です。そこで部落差別についてどのような認識をされているのかと思い、「部落差別の研修はされていますか」と尋ねると、「人権と言っても、女性問題や障害者問題等色々あるので、……」との返事が返ってきました。もう一度「部落差別の研修はされていないのですか」と聞くと、「資料がないので」と帰ってきました。部落問題の研修は全くされていないのではないかと受け取り、そこで「国が出した、同対審答申に書いてあるでしょ」と聞くと「同対審答申とは何ですか」とびっくりするような返事が返ってきました。この言葉が、その会議の場にいられている農林水産省の私たちとの窓口の責任者から出たのです。つまり、部落問題の研修もしていなければ知識もほとんどない状態で、私たちとの話し合いの場に出てこられていたのです。これでは、私たちがなぜ、提出しているような要望を国にしているか理解できるはずがありません。要望の実現が、「できない」は、別の話です。少なくとも、部落差別とは何か、そして被差別部落の農業や漁業がどのような中でされてきたのか。地理的条件や周りの差別等を理解されたうえでの話ではないかと私は思います。それが、相手にたいしての最低限のマナーではないでしょうか。

### 今号のもくじ

- ▶1面… つとむくんのつぶやき  
「このごろ思うこと」
- ▶2面… 人権セミナー第4回のご案内
- ▶3面… 本の紹介  
「宗教右派とフェミニズム」
- ▶4面… 第57回全研FW報告 / FWコース案内

今回の話だけではなく、この間の衆議院選挙やアメリカの大統領選挙、兵庫での知事選挙など、納得できない、これでいいのだろうかと思ってしまうのは私だけでしょうか。

(一社) ひょうご部落解放・人権研究所  
事務局長 細田 勉

**(一社) ひょうご部落解放・人権研究所 2024年度人権セミナー****《第4回》震災と人権—阪神・淡路大震災30年に考える****講師：増島智子さん（被災地 NGO 協働センター）**

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災は6,434名の犠牲者をもたらし、たくさんの方々の生活を一変させました。特に社会的に弱い立場の人が大きな被害を受けたことが特徴と言われます。

それから30年、2011年3月11日の東日本大震災を始め、多くの震災、水害などが起きていますが、阪神・淡路大震災で問題となったことは解決されたのでしょうか。

被災地 NGO 協働センターは、1995年1月19日に結成された阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議の分科会の一つからスタートした団体で、生きがい仕事づくりの「まけないぞう」事業や KOBE での経験を活かした災害救援、足湯ボランティア、寺子屋セミナー、提言活動などに取り組んでいます。

セミナーでは、阪神・淡路大震災のボランティア活動をきっかけに被災地支援活動に取り組んできた増島智子さんに、阪神・淡路から30年にあたっての思い、2024年1月1日に起きた能登半島地震の被災地の状況や支援活動の中で気づいた課題などについて話していただきます。

■日時：2025年2月15日（土）14：00～16：00（13：30受付開始）

■参加資料代：一般：1000円／定期購読（個人）・学生・賛助会員：500円  
正会員：無料 ※特別会員の方は無料クーポンをご利用ください。

■場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室（神戸市中央区山本通4-22-15）  
※オンライン配信有（zoom ミーティング）

■定員：〔会場〕60人、〔オンライン〕90人

**■申込方法**

上記 QR コードから申込ページへお入りいただけます。その他、お電話、メール等でもお申し込みいただけます。

**■その他**

- ・ご参加は、セミナーの趣旨に賛同する人に限ります。
- ・録音・録画や資料の二次利用などは固くお断りいたします。
- ・会場ではマスクの着用等、感染対策にご協力をお願いします。



申込ページ

**2025年度も開講！ひょうご人権総合講座及び人権教育実践講座**

2024年度ひょうご人権総合講座及び人権教育実践講座には、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございます。2025年度の講座につきましては、みなさまが参加したくなるような講座内容を企画中です。どうぞ期待。

開催時期（予定）：ひょうご人権総合講座 2025年8月～12月の木曜日  
人権教育実践講座 2025年8月



## 本の紹介

# 『宗教右派とフェミニズム』

ポリタス TV 編、山口智美・斉藤正美著、青弓社、2023年8月、1,980円(税込)

2022年7月8日に発生した安倍晋三元首相の銃撃事件を受けて、ネット発の独立型報道番組「ポリタス TV」（ジャーナリストの津田大介主宰）が7月20日と21日、「宗教右派と自民党の関係——ジェンダーと宗教」を配信した。5日間限定の無料公開で10万回以上再生、「嵐のような反響」で、「自分の知らないことばかりで衝撃だった」「これまで日本政治に感じてきた言葉にできない違和感に、はっきりとした答えを与えてくれた」といった反応が多かったという。本書はこの番組をもとに、ジェンダーやセクシュアリティ、家族をめぐる政治や、日本会議や旧統一協会などの宗教右派の関わりについて、全編書き下ろしでまとめられたものである。



著者の山口智美（アメリカ・モンタナ州立大学准教授〔現・立命館大学教授〕）と斉藤正美（富山大学非常勤講師）は、フェミニズムの視点から草の根保守運動を長く調査・研究し、発信を続けてきた研究者である。2012年には、評論家の荻上チキと共同でおこなった男女共同参画や性教育などへの右派によるバックラッシュ（反動）の調査をまとめた『社会運動の戸惑い——フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』（勁草書房）を出版している。

本書の構成は「第1部 安倍政権以前——一九九〇年代後半から二〇〇〇年代初頭のバックラッシュ」と「第2部 安倍政権以後——二〇〇〇年代中盤からのバックラッシュ」に分かれている。

第1部は、〈バックラッシュのはじまり〉〈一九九〇年代のバックラッシュ〉〈「ジェンダーフリー」バッシング〉〈第二次男女共同参画基本計画（二〇〇五年）と「ジェンダーフリー」の削除〉、第2部は〈第一次安倍政権以降のジェンダー、セクシュアリティ、家族をめぐる政策と宗教右派〉〈夫婦別姓問題に対する右派の運動〉〈「女性活躍」「一億総活躍」〉〈官製婚活・少子化対策〉〈プロライフと右派運動〉〈自民党改憲案〉〈性的マイノリティの権利と右派運動〉〈「歴史戦」〉〈バックラッシュの政治を捉え直す〉。それぞれにあげられたテーマごとに短くわかりやすい説明が記され、写真など画像資料も多く、予備知識がなくても流れがわかるようになっている。

1975年、国連は「国際女性（婦人）年」を宣言、79年に女性差別撤廃条約を採択した。日本では85年の条約批准に備え、84年に国籍法を父系から父母両系血統主義に改正、85年には男女雇用機会均等法が制定された。94年には家庭科が男女共通の必修科目となった。96年には法制審議会が選択的夫婦別姓制度を盛り込んだ民法改正案を含む答申をまとめ、99年には男女共同参画社会基本法制定と、性差別撤廃などを目指す取り組みが進んでいくかに見えた。しかし、それ以降、その動きが押し止められ後退し、選択的夫婦別姓制度や同性婚実現なども全く動かない状況が続いている。本書では、その裏にある、1990年代から今に至る30年の、日本会議や旧統一協会などの宗教右派をはじめとする右派勢力の動きが浮き彫りにされている。

特に注目したいのは、第2部の、日本軍「慰安婦」をめぐる歴史修正主義の動きを記した〈「歴史戦」〉と〈性的マイノリティの権利と右派運動〉だ。後者では、2023年に成立したLGBT理解増進法やトランスジェンダー差別など現在の問題に至る流れや、宗教右派に利用されるフェミニズムの問題も記されている。

ポリタス TV の当該番組はネットで見ることができる（#552・#553、有料）。本書出版時に配信された「著者・編集者に読みどころを聞く」（#840、無料）も合わせてお勧めしたい。（H）

## 部落解放研究第 57 回全国集会フィールドワーク報告

11 月 19 日～ 20 日、神戸国際展示場をメイン会場として開催された部落解放研究第 57 回兵庫県集会では、当研究所が 2 日目の現地フィールドワークを担当し、A コース「港町神戸と被差別部落」と B コース「神戸長田の在日コリアンの歴史を歩く」の 2 つのフィールドワークを開催しました。定員は各 30 人でしたが、申込開始から数日で定員を超える多くの申し込みをいただきました。



A コース  
「賀川豊彦生誕 100 年記念碑」前

A コースでは、生田川と新湊川の 2 つの川沿いを歩きながら神戸の発展と被差別部落の関係を、B コースでは“くつのまち長田”を支えた在日コリアンの歴史と現在を学んでいただきました。参加者の方からは、「被差別の実態がいまだに残されていることに驚いた」「実際に歩き、当事者の話を聞く貴重な体験ができた」等の感想をいただきました。



B コース「源平町トンネル跡」

### フィールドワークの企画運営は研究所まで↓

ひょうご部落解放・人権研究所ではご希望のテーマに添ったフィールドワークの企画、運営を行っています。お気軽にお問合せ下さい。

■コース例

①湊川・番町地区コース

番町地区の成り立ち、湊川の付け替え工事が及ぼした地区への影響と被害、阪神・淡路大震災の被害と復興などについて学びます。

②生田川・賀川記念館コース

神戸開港による外国人居留地の形成と屠場の関係、それに伴う被差別部落の形成と水平社運動、賀川豊彦の活動などについて学びます。

■基本料金	半日	1 日
神戸市内(10 人まで)	35,000 円	40,000 円
神戸市外(10 人まで)	40,000 円	45,000 円

※その他賀川記念館入館料などの諸経費は実費 / 10 人をこえる場合は追加料金あり

### 事務局から

- 晩秋になると、来年の稲作に向けての田づくりが始まります。昨年は暑さで、農作物が大きな影響を受けました。今年はどうな気候になるのかなあと「不安」を抱きながら新しい年を迎えるばかりです。(Ho)
- 去年足を骨折した妻は、まだまだリハビリが必要です。簡単には回復できず、時間もかかるようです。しっかりサポートして今のうちに得点を稼いでおきたいものです。(ka)
- デマと誹謗中傷にあふれたひどい知事選挙から 1 カ月余り。県議会の百条委員会が再開されていますが、何よりも内部告発後に不当な懲戒処分を受けた元県民局長の名誉回復がなされることを願っています(H)
- 去年は育休復帰から年末まで、事務所のみなさんに多大なご迷惑をかけたばなしの 1 年でした。今年はせめて自分の体調管理をしっかりしたいです。(ひ)

